トラフグ標識装着風景

標識装着前の水トラフグ水槽

標識装着作業

標識　焼印装着

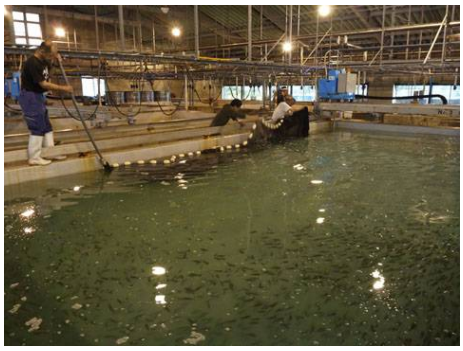
標識　右胸鰭切除

日本海、西日本各県では、日本海・東シナ海・瀬戸内海系群の資源量増大を目的にめざし、共同してトラフグの放流を実施しています。放流され東シナ海に出て行くトラフグには、全て共通して右胸鰭を切除しています。愛媛県では、さらに背中に焼印を施し、放流場所が特定できるようにしています。

焼印は放流する 40,000 尾すべてに、このうち 20,000 尾の右鰭を切除しました。

標識を装着したトラフグ

トラフグ放流風景



トラフグの取り上げ

トラフグの放流　サイホン流し込み　最後は人手によるバケツリレー

放流されるトラフグ　　近くの漁業者も参加　　テレビ取材

トラフグ４万尾はトラック２台に乗せて、２時間ほどで伊予市から西条市に運ばれました。放流場所は西条市禎瑞地先（龍神社の前）で、加茂川と中山川の河口に広がる干潟域です。ここは、トラフグをはじめ、多くの魚、カニやエビ類の育成場になっています。

放流にあたっては地元西条市漁協の職員や、漁業者が協力してくれました。なお、当日テレビ愛媛の取材がありました。

この干潟域で、秋には２０cm くらいまで育ち、沖合に出て行きます。その後、燧灘を西に向かったものは、翌年には東シナ海に出て行きます。東に向かったものは、１年間くらい瀬戸内海の中央部で育ち、４０cm くらいまで大きくなって東シナ海に出て行きます。そして、２～３年後、５０cm くらいなり、上島町の弓削周辺に帰って来て産卵します。

どのくらい、帰ってくるか楽しみです。今後、本所では、放流されたトラフグについて、放流に参加した各県と共同して、移動や資源量について調査していく予定です。